

## 沖縄県知事選の勝利をめざす決議

- 1 朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）が強行した核実験は、国連安全保障理事会の制裁決議を引き出し、国内外に政治的・軍事的緊張を生み出している。  
国民は、事態が平和憲法の改悪策動に象徴される国内政治の保守化・軍事化、世界的な米軍再編成の動きの中で進行していることに重大な懸念を有している。
- 2 日米両政府は、本年5月、日本における米軍の再編に合意し、日米軍事同盟を一層強化・変質させようとしている。沖縄では本島北部辺野古沿岸部への新基地建設を合意し、これを強行する姿勢を示している。米軍は、10月には再編計画の一環として嘉手納基地にパトリオットミサイルを強行配置した。安保条約の矛盾の集中する沖縄は、ますます苦悩を深くしている。このような状況の下で、沖縄県知事選挙（11月2日告示、19日投票）が行われることになる。
- 3 沖縄県内の社大党、共産党、社民党、民主党、自由連合の5党は、糸数慶子参議院議員を統一候補として擁立することを決定した。これを受けて糸数氏は、10月1日に出馬表明を行い、県知事選挙戦がスタートした。  
糸数慶子氏は、憲法第9条を守り、新基地建設反対を政策の中核に据え、2年前の参議院選挙では野党陣営の統一候補として31万余票を獲得した候補者であり、激戦が予測されている。
- 4 今回の県知事選は、8年ぶりに県内野党が幅広く団結・統一して闘うものであり、その行方は、沖縄県だけでなくわが国の将来を占う上で重要な試金石となるものである。  
選挙戦で勝利すれば、新基地建設を断念させ、米軍再編計画に大きな打撃を与え、さらに、憲法改悪阻止の運動に大きな弾みをつけ、幅広い国民結集への明るい展望をひり開くことができ、その意義は決めて重大である。
- 5 沖縄県内の平和・民主勢力は、力を合わせて、全力を挙げて選挙支援を行なう決意で準備を行っている。  
私たち自由法曹団としても、今回の選挙戦の持つ重大な意義にかんがみ、県知事選勝利をめざして、全面的にこの闘いを支援するものである。

2006年10月23日

自由法曹団2006年総会